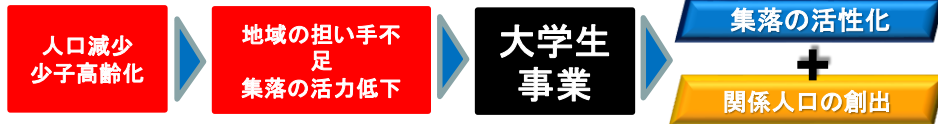




大学生と集落の協働による地域活性化事業

福島県 地域振興課
TEL: 024-521-7114

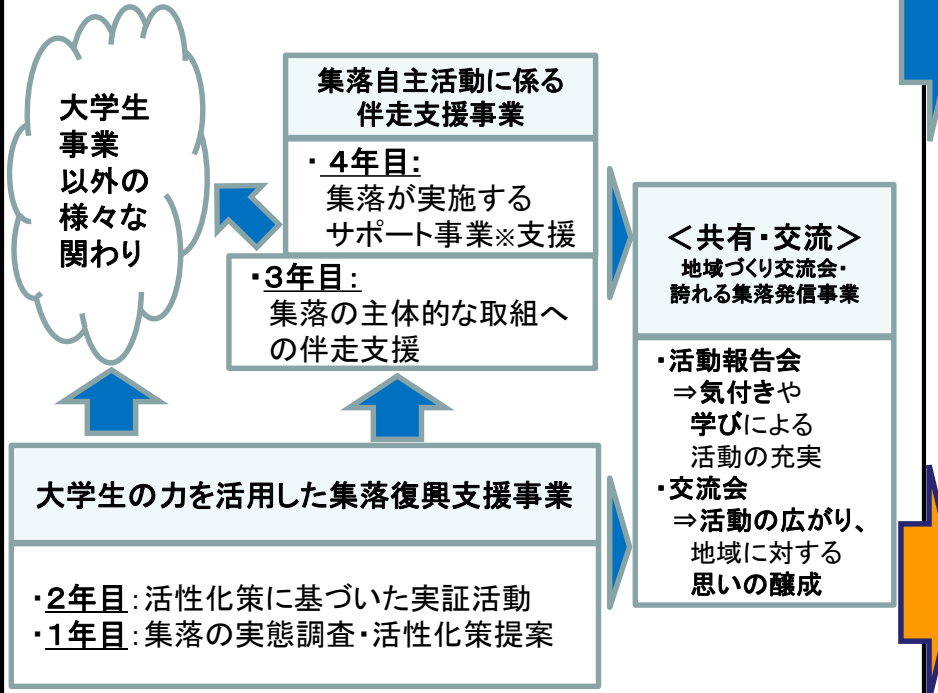
背景・目的



◇平成21年度から実施し、これまで**96集落・96グループ**が参加
 ◇主な参加大学: 福島大、東北大、獨協大、宇都宮大、東洋大、宮城教育大、宮城大 (R6.9月現在)

集落活性化の取組

- ◎大学生の持つ**柔軟な視点**や**感性・行動力**を活かした集落活性化
- ◎県内外の若者と集落の交流
- ◎集落の主體的な活動を支援



※ サポート事業: 地域創生総合支援事業(過疎・中山間地域活性化枠)

集落活性化の事例

農家民宿でまちおこし
 二本松市木幡地区水舟集落 × 宇都宮大学 H25~26, H30~R1
農家民宿



○大学生が**農家民泊ガイドライン**を作成し、農家民宿体験を実施。
 ○木幡地区では学生の提案を受け4軒の農家民宿が開業、現在は**8軒が運営中**。

竹の活用 SDGs
 会津若松市大戸地区 × 会津大学短期大学部 R1~
地域資源



○伐採した竹を活用し、**竹灯籠**や生活雑貨の製作、竹酢液を使った野菜作りを実践。
 ○収穫した野菜は、**地元の高校生や企業と連携して販売**。

あんぼ柿 復っ活
 伊達市梁川町五十沢地区 × 東洋大学 H27~30
特産品



○風評による売上減少、検査に伴うコスト増等により苦戦していたあんぼ柿。
 ○市場ニーズを捉えた少量販売、学生考案の包装デザイン、「発祥の地」の売り込みなど高付加価値の商品化に成功。

交流活動継続宣言
 只見町市沢地区 × 宇都宮大学 H22~
交流



○学生とOBが任意団体「D-friends」を結成し、区と「**交流活動継続宣言**」を締結。**年間延べ約200人**が地域を訪問し活動・交流を継続。
 ○本事業のOBが**地域おこし協力隊**を経て「**森林の分校 ふざわ**」の支配人に就任。

関係人口・地域の担い手へ

地域おこし協力隊
 西会津町中町集落 × 福島大学

○Aさんは西会津町民の人柄に惹かれ、令和4年4月より西会津町の**地域おこし協力隊**に着任。
 ○集落支援を担当し、西会津町と他の地域をつなぐ架け橋として活躍中。

地域おこし協力隊 → 起業
 南会津町耻風地区 × 獨協大学

○OBさんは大学生事業をきっかけに、南会津町の**地域おこし協力隊**として3年間活動。
 ○任期終了後も、**南会津町に定住し直売所の運営**、地元商品の県外への販売、製作したキッチンカーの営業に挑戦中。